



米国食肉輸出連合会は、日米の食肉業界の飛躍に貢献できるよう努力しております。

Trader's Be&Po

米国食肉輸出連合会 (USMEF) <http://www.americanmeat.jp>

Volume 010 Aug 9, 2004

Trader's Be&Poはメールでもお届けします。ご希望の方は、下記にご記入の上、FAX返送してください。

お名前 様 メールアドレス @

FAX番号 03-5542-2912

「Trader's Be&Po」はインターネットでもご覧いただけます。
ご希望の方は、下記URLからダウンロードしてください。
<http://www.americanmeat.jp/publications/tnf.html>

★「Be&Po」とは、Beef(牛肉)とPork(豚肉)を合わせた言葉で、アメリカン・ミートがもたらす豊かな食の世界を表現しています。

BSE関連ニュース

●日米会談の今後の見通し

第3回日米専門家協議では、一部メディアが報じたような日本の全頭検査要求に対する合意や歩み寄りはなかったものの、両国の対策に対する理解に進展がみられた。一方、両国の最終報告書によると未だ重要課題が残されている。8月には局長級協議が予定されているが、専門家協議は3回で完結し、今後両国が問題点をどのように協議していくかが注目される。

また、米国は日本の牛肉輸入を許可する規定を発表しなくてはならないが、このプロセスにも時間を要する。こうしたことを考慮すると、日本市場への輸出は2005年になるという見方もある。これは全月齢の牛のSRM除去など、月齢全般に関する問題に双方が合意できると推定した上での見方である。また日本政府は、全頭検査の規定撤廃に対して国会の支持を取りつけ、それを自国の消費者に納得させる必要がある。

《今後の課題》

協議後、USDAが発表した報告書によると、日本側は、BSE対策特別措置法に基づき全頭検査を求めている。しかし、日米合意のためには、この法令は変更の必要があるかもしれない。

報告書によると、日本は、一定の月齢以下の牛に異常プリオンを発見するのは困難であるという点には同意し、検査の技術的限界を補うためにすべての牛からSRMを除去するが、日米ともにさらに精度の高い検査方法を採用するべきだとしている。

SRM定義の条項の中で、両国は、

- 1.SRM除去対象を日本は全月齢の牛としているが、米国では30カ月齢以上
- 2.日本はすべての動物飼料からSRMを除去、米国は反芻動物用の飼料だけから除去
- 3.米国を含めBSE発生率が低い国では、SRM除去は30カ月齢以上が妥当という米国側の主張の3点で意見が異なっている。健康な牛の検査についても意見が異なる。日本の処理・加工場における検査では、BSE陽性の9頭のうち5頭が「普通で健康な牛」だったため、日本側は健康な牛もリスクが高い牛も検査が必要だと主張している。

※2004年7月26日 Cattle Buyers Weekly



BSE関連ニュース

●米国の生体牛輸入禁止に、カナダが異論

7月17日、カナダのマーチン首相は、米国がカナダ産生体牛の輸入禁止を続けることに疑問を呈した。

カナダ牛はBSEのリスクが低いとされているにもかかわらず、米国牛肉業界のごく一部が貿易の全面的な再開を妨げていると非難。輸入再開は、カナダだけでなく米国にとっても利益が大きく、この禁止措置のため、米国消費者は牛肉製品に高額を支払っていると同首相は語る。

カナダのon-feedレポートによれば、アルバータとサスカチュワンの肉牛頭数は1年前より11%減少。カナダの牛肉産業は、当面低速状態と推測されている。

※2004年7月21日 NAMP Newsfax

米国食肉市場ニュース

～ 牛肉 ～

牛肉市況 (7月26日～30日)

●週間と畜頭数：63.4万頭 (前年比11%減)。

●肥育牛の取引価格 (100ポンド [約45kg] 当たり)：

主要5市場では、平均84.98ドル (前週比0.51ドル高)。
枝肉価格は平均132.58ドル (前週と同じ)。

●牛肉価格：先週からの動きは微少。19～23日の週には歩留まり等級3 (YG3) のチョイスは136.37ドル (前週比2.56ドル減)。YG2～3のセレクトは134.23ドル (同2.19ドル減)。

7月の肉牛頭数は10,360万頭 (前年7月1日は10,390万頭)。肉牛頭数のトップ11州のうち7州が前年度より多いか、ほぼ同数。ネブラスカ州は6%増でトップ。続くミズーリ州は同比5%増。

主要12州¹⁾のフィードロット内頭数²⁾、前年比2.0%増

(2004年7月1日現在)

| | 2004年 ³⁾ | 対前年 |
|--------------------------------|---------------------|--------|
| 6月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾ | 10,625 | 100.0% |
| 6月導入頭数 | 1,639 | 98.0% |
| 6月出荷頭数 | 2,077 | 93.3% |
| 6月のその他の消失 ⁵⁾ | 70 | 114.8% |
| 7月1日現在フィードロット内頭数 ⁴⁾ | 10,117 | 102.0% |

注：1. アリゾナ、カリフォルニア、コロラド、アイダホ、アイオワ、カンザス、ネブラスカ、ニューメキシコ、オクラホマ、サウスダコタ、テキサス、ワシントン
2. 収容頭数1,000頭以上。
3. 単位：1,000頭。
4. 穀類あるいは他の濃厚飼料を主食とし、セレクト以上として肥育される、と畜用の牛、子牛。
5. 死亡、放牧場への移動、他のフィードロットへの移動など。
※2004年7月27日 Cattle On Feed (Glen Grimes & Ron Plain)

オクラホマシティーにおける去勢牛の体重別、100ポンド (約45kg) 当たりの価格 (US\$)

| 体重 (ポンド) | 6月21～25日 |
|---------------|---------------|
| 425～500 | 128.00～150.00 |
| 500～600 | 118.00～136.00 |
| 600～600 (子牛) | 115.00～124.50 |
| 600～700 (若齢牛) | 123.00～129.75 |
| 700～800 | 118.00～125.00 |
| 800～1000 | 101.50～118.00 |

※2004年7月30日 Cattle Outlook (Glen Grimes & Ron Plain)

～ 豚肉 ～

豚肉市況 (7月26日～30日)

●週間と畜頭数：189.6万頭 (前年比4.6%増)。

●肉豚の現金取引価格：主要市場の価格は、強含みで月末を迎えた。前週から値動きは安定し、2.50ドル増。

100ポンド (約45kg) 当たりの豚肉製品価格 (7月30日/US\$)

主要市場における100ポンド (約45kg) 当たりの最高価格 (US\$)

| | 7月30日 |
|---------|-------|
| ベオリア | 54.00 |
| セントポール | 57.00 |
| スーフォールズ | 57.50 |
| ミズーリ中央部 | 54.75 |

185ポンド物 (約83.5kg) の枝肉平均価格 (US\$)

| | 7月30日 |
|------------|-------|
| 東部トウモロコシ地帯 | 75.73 |
| 西部トウモロコシ地帯 | 75.48 |
| アイオワ・ミネソタ | 75.43 |
| 全国 | 75.62 |

| 製品名 | 価格 (前週比増減) | 備考 |
|----------|----------------|------------------------|
| ロイン | 120.00 (+4.00) | トリム1/4インチ |
| ポストン・バット | 99.50 (+10.30) | トリム1/4インチ |
| ポークベリー | 115.00 (変わらず) | 14～16ポンド物 (約6.3～7.3kg) |
| ハム | 78.00 (+1.00) | 17～20ポンド物 (約7.7～9.1kg) |

※2004年7月30日 Hog Outlook (Glenn Grimes & Ron Plain)



セーフティー関連 ニュース

●州の家畜個体識別システムが全米モデルに

連邦政府補助金250万ドルを得て開発されたウィスコンシン州の家畜個体認識システムが、全米プログラムのモデルに指定された。

昨年のワシントン州での同国初のBSE発見で、USDAは全米規模の個体識別システムの開発を急いでいるが、ウィスコンシン州ではすでに3年前から、業界・州政府・専門家によるチームが同システムの開発を始めていた。

同システムは巨大なデータベースで構築され、現在は基礎段階として各農場に個別のID番号を付けている。数年以内に、生産履歴や個体のID番号などの詳細な情報を入力したコンピュータチップを使用してトレースバックが開始される。この他コロラド州やその他の主要家畜生産州でも同様の開発が急ピッチで行われている。

※2004年7月19日 MyCattle.com

業界ニュース

●牛肉業界不振のなか、ファーストフードの売上は好調

ハンバーガーチェーンなどを展開しているウェンディーズ・インターナショナル社は、牛肉の高値にもかかわらず、第2四半期の売上高は前年同期比15.6%増、純利益で同17.2%増と発表した。

第3四半期には、同社の牛肉価格は1ポンド当たり1.31ドル(前年同期1.17ドル)で、今年度の第2から第4四半期において、前年度に比べ4~7%の上昇を見込んでいる。

マクドナルド社も全世界で売上を伸ばし、前期比7.8%増となった。これは第2四半期の業績としては1987年以来の記録的な伸び。「顧客にアピールするメニュー作りやプロモーションが売上増に貢献した」と同社CEOは語っている。

★MEFホームページ リニューアルのお知らせ

USMEFは8月3日、ホームページをリニューアルいたしました。「業界の方向け」のページでは、アメリカのBSE対策に関する資料の申し込みを受け付けており、こちらの資料はホームページからダウンロードすることもできます。

「一般の方向け情報」のページには、BSEに関するFAQやアメリカの対応などの項目を新たに加えました。またBSEに関する消費者用小冊子「知って安心 BSEのホント」の申し込みを受け付けております。